

第 1 回 歴史・文化、自然再生WGの開催結果	
日 時	平成 23 年 10 月 28 日 (金) 14:00~16:00
場 所	亀岡市文化資料館
出席者	京都大学大学院 教授 岩田 明久 グループ長 亀岡文化資料館 館長 黒川 孝宏 副グループ長 亀岡地区東部自治会 柴田 治人 NPO法人亀岡人と自然のネットワーク 仲田 丞治 保津川の世界遺産登録をめざす会 樋口 隆久 亀岡市文化資料館友の会 中川 秀夫 亀岡市道路河川課 竹村 課長 // 桂川・広域交通課 中井 課長、柴田 副参事、竹村 主査 (事務局) 京都府南丹土木事務所河川砂防室 松崎 室長、井尻 副室長、福井 主査、青木 副主査 (順不同、敬称略)
内 容 (次第)	1) 開 会 2) 出席者紹介 3) ワーキンググループの設置にあたって 4) 議 事 ○河川利用にあたっての基本的事項 ○歴史・文化、自然再生ワーキングでの検討事項 ○水際の現状と課題について ○次回以降の進め方 5) 閉 会
結 果	<p>○ワーキングでの当面の検討事項について了解</p> <p>○水辺の保全再生については、事務局案を基本に進めることについて了解。今後、整備の進捗に応じて状況を報告する中で、必要に応じ検討を加えていく</p> <p>○内膳堤の復元については、次回、文献など基礎資料を収集した結果を報告する</p> <p>○その他、本WGでの取り組みについては、次回以降さらに議論を深めていく</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保津川下りでは保津峡まで約 2 kmあるが、この間には残念ながらとりたてて何も案内することがないのが現状 ・内膳堤など歴史的な施設が復元されれば、これを中心に話の広がりを持たせることができると思う ・水辺を歩きながら歴史や文化、自然にふれあえるような仕掛けづくりが必要 ・水辺の再生にあたっては、多様な環境を意識することが重要。自然石の根固めも空隙が均一化して単調にならないように配慮すべき ・コンクリートブロックを全て隠してしまうのではなく、それぞれの時代における治水対策の変遷が見られるように、残すことも考えてはどうか ・フィールドミュージアムとしての活かしていくという観点は重要 ・NPOなどからも要望が出されており、今回はこれも踏まえて、このWGでも取り組みの議論をさらに深めていければと思う
	 